

第4回 総合計画策定に係る柏崎市総合計画審議会 議事概要

- 1 日 時 令和7（2025）年6月30日（月） 午後2時30分から午後4時40分まで
- 2 場 所 柏崎市役所4階 4－3、4－4会議室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 樋口秀会長、柿崎啓子副会長、相田浩委員、飯田博委員、岡田和久委員、片岡哲雄委員、権田恭子委員、嶋岡和美委員、霜田直也委員、田邊幸子委員、遠山みちる委員、中野博幸委員、長谷川弘美委員、丸田秋男委員
 - (2) 庁 内 総合企画部長、財務部長、市民生活部長、危機管理監、福祉保健部長、子ども未来部長、産業振興部長、都市整備部長、上下水道局長、教育部長、議会事務局長、消防総務課長
 - (3) 事務局 企画政策課長、同課長代理、同企画係員

4 会議資料

【事前配布】

- ・次第
- ・資料1_人口ビジョンについて
- ・資料2_中学校区別将来推計人口について
- ・資料3_基本理念・将来都市像・重点戦略について
- ・資料4_分野別施策の基本方針に係る主要施策シート
- ・資料5_分科会審議経過

【当日配布】

事前配布資料のほか、席次表

5 会議概要

(1) 開会

(2) 会長挨拶

西の方から梅雨明けが始まってきている。「～明け」と聞くと大抵良い意味であるが、梅雨明けは暑くなりそうで心配している。今年度初めての会議となる本日は、第4回目の審議会になる。年度が変わり、事務局メンバーも一部変わったが、時代に即した計画の策定を引き続き進めていきたい。本日決定したい事項もあるため、忌憚のないご意見をいただきたい。

(3) 議事

委員の発言は次のとおり

発 言 者		発 言 概 要
【人口ビジョンについて		資料1、資料2】
(資料1及び2に沿って事務局が説明)		
会 長	:	資料1のスライド26の人口ピラミッドについて、左のグラフは令和2(2020)年で81,526人だと分かるが、右は令和17(2035)年で総人口が何人の時か。

事務局	：	スライド23で示した②の出生率が平均値で推移した場合の、令和17(2035)年の人口であるため、総人口64,905人の人口ピラミッドを表している。
委員	：	資料1のスライド5において、平均世帯人員が直近で2.24人/世帯となっているが、1人世帯もますます増えていると思う。実際1人世帯はどれくらいいるのか。 また、資料2の中学校区別将来推計人口については、現時点ではこのような記載になると思うが、今後学校の統廃合が進むとどのように変わってくるか。
事務局	：	1人世帯については、手元に資料がないため、後日紹介することとしたい。 また、中学校区別の将来推計人口については、現時点で統合していないため統合後の数値を算出していないが、基本的にはそれらを合算したものになる。
会長	：	社人研では、世帯数の推移も出している。今度参考に見ておくといいのかもしれない。
委員	：	資料1のスライド25で、柏崎市における人口の将来展望として、合計特殊出生率1.24を使う妥当性について伺いたい。 また近年、合計特殊出生率の増減が激しいが、これは周辺の近隣市町村も同様の動きか。それとも柏崎独自の特徴なのか。
事務局	：	1.24という数値は、令和2(2020)年から令和5(2023)年の平均値である。近年は合計特殊出生率の増減が激しく、固定した年の合計特殊出生率で推計すると、極端な数字になってしまうため、平均値で算出している。 合計特殊出生率は、自治体によっても数値にばらつきがあるものと考えているが、全国的にも少子化が加速しており、国の予測より15年も早く進んでいると言われている。柏崎市の合計特殊出生率においても、そのような傾向が表れていると思う。
子ども未来部長	：	合計特殊出生率は、子どもを産むことができる女性の数と実際に生まれた子どもの数で算出するため、分母と分子の関係による数値となる。県内にも似たような動きをしている自治体もあった。出生率の増減は特定の要因によるものではないため、原因を突きとめることは難しい。経済状況を始めとする様々な要因が影響を与えることから、自治体によって出生率の変動にもばらつきがあるものと考えている。
委員	：	資料1、2を見ると、人口の減り方や少子化の傾向が、県内他市より進んでいるという見方でいいか。
会長	：	新潟県内においても減少している中で、県内他市と比べてやや減少率が高い感じもあるが、他市と比較してもそれほど差はなく同じように減少しているため、一丸となって人口減少問題に取り組んでいかなければならない。

【基本理念・将来都市像・重点戦略について

資料3】

(資料3に沿って、事務局が説明)

委員	：	将来都市像の「笑顔」と「躍動」はいいが、「energy」がしっくりこない。「未来」というワードがないため、「energy」よりも未来を入れた方が良いと感じた。
委員	：	基本理念に、「市民」というワードが2回出てくるため、少し長いと感じた。 また、重点戦略1の、安心の追求が日本語としてしっくりこない。重点戦略2で挑戦ということは分かるが、重点戦略1でも笑顔というキーワードに対して、追求・挑戦は、少し硬すぎる気がする。
委員	：	将来都市像の「energy」が気になっている。日本語の語呂としてつながってこない。「笑顔」、「躍動」、「energy」を一文にまとめているようで、3つがバラバラ

な気がする。

委員： 将来都市像の「躍動」と「energy」はイメージするところが同じ印象であるため、どちらかに集約してもいいと思う。

また、基本理念と将来都市像との関連性が分かりにくい、どのように考えたらよいか。

事務局： 「笑顔」は、市民の幸福の実現が最終的に「笑顔」につながっていること、また、「躍動」については、市と市民がともに育み、活力を持って取り組んでいくことへつながっている。

委員： 将来都市像の案は、前回の審議会で示された4つの案を汲み取っていただいた内容だと感じる。コンパクトに収まるよう「あふれる」や「つながる」などをあえてカットしたということかもしれないが、文法的に分かりにくくなってしまった。「笑顔」と「躍動」の間には「・」があるが、「躍動」と「energy」の間にはないため、どのような区切りで読んでいいか迷う部分もある。将来都市像を聞いて、柏崎市だと分かるようにするのはいいことだが、「energy」というワードを使うことにリスクがあるとすれば、決断・判断が必要になってくる。

委員： 基本理念の前回の案で、まちづくりの基本条例を引用して、市民と市の両者が主語として認知されていたが、今回の修正案はそれが省かれている。市が主語となることを明確にしたと読み取ることができるが、そのような認識でいいか。もしそうだとすれば、市が主体となることに変えた理由について、見解を伺いたい。

将来都市像に「energy」というワードを掲げるのであれば、主要施策にも重点的に書かれていなければならないと思うが、エネルギーの施策が少ない。柏崎らしさとしては分かりやすいが、計画の内容との整合性が弱いのではないか。

重点戦略を2つにまとめているが、印象としては今までの路線を粛々と続けていくということだと感じた。第五次総合計画の総括では、「施策を確実に行って人口減少の抑制に結びついていないことが課題である」とまとめていたが、新しい重点戦略もあまり変わっておらず、今まで続けてきたことに、引き続き取り組んでいくこととしている。重点戦略には、それぞれめざす姿が書かれているが、抽象的な書き方であり、何を目標とすればいいのか分かりづらいため、重点戦略にも目標指標を設定し、取り組んでいくことが重要である。

事務局： 基本理念を一部変更した理由は、分かりやすい表現にしたかったためである。また、重点戦略については、総括で様々な施策したがなかなか結果に結びつかなかったことから、現行の重点戦略から一歩踏み込んだものにした。重点戦略1については、子育て以外にも医療や公共交通を付け加えることによって、より市民が暮らしやすい環境を作っていく、それが結果に結びつくような重点戦略にしたい。また、重点戦略2の方も、ものづくり産業だけでなく産業全般において付加価値をつけていき、産業の活性化により雇用の場を創出し、それが定住につながっていくという視点で、このような提案をさせていただいた。

委員： 将来都市像の文字の並びに違和感がある。「笑顔」が将来都市像の最初にあるが、最終的には市民の笑顔であることを表すのであれば、最後に「笑顔」というワードがあってもよいかと思う。また、なぜ「未来」を除外したのかも気になる。「energy」については、柏崎らしさと市がこれまでエネルギー施策に取り組んできたことを表しているが、もう少し検討する必要があるのではないかと感じる。

委員： 柏崎を表すワードとして「energy」は良いが、やはり語呂として引くかかる。重点戦略1の「安心と暮らしやすさの更なる追求・挑戦」は、もう少しめざす姿

		に魅力あるまちという部分を入れてもいいと感じた。
委 員	:	「energy」については、皆さんのおっしゃることもあるが、インパクトがあるなと思った。「笑顔」や「躍動」は入れるべきだと思うが、「energy」という変わった文字を入れることで立ち止まってくれる人もいると思う。大事なのは、市民が目にとめてくれることであり、「energy」に対して丁寧な説明ができればいいのではないかと感じた。
委 員	:	前回の審議会の協議を踏まえて、柏崎ならではのメッセージという観点からこのような案になったと思う。民間であればこのくらい尖っていてもいいのかもしれないが、公の機関が掲げることに賛否があるのだと思う。メッセージ性を強くし、しっかりと説明することで原案どおりとするのか、みんなに心地よい将来都市像とし、誤解を生まないようにするのか、悩ましいところである。
委 員	:	基本理念について、漢字の表記をひらがなに修正したことは、柔らかさが表現され、いいと思った。 将来都市像については、キーワードの順序の意見があったが、「笑顔」でいることでいい事や様々な案が舞い込んで「躍動」につながると思うので、この順でもいいと思う。
委 員	:	基本理念、将来都市像について異論はなく、逆に将来都市像については評価をしている。将来都市像の案を見て、市民一人一人が将来の都市像を自分なりのストーリー性を持って想像し、行政と共に活動していくという意味合いが含まれているのではないかと捉えたため、将来都市像としていいのではないかとと思う。 重点戦略は、1、2に加え重点戦略3を設置し、柏崎らしい戦略を明確にしてもいいのではないかと。これまでの審議会から、改めて柏崎の市民力、地域力を再認識したためである。主要施策シート5-3に、市民力・地域力が出てきており、また、基本理念にも市民とともに作るまちづくりがうたわれている。そのことを踏まえると市民の幸福を実現する重点戦略として、市民力・地域力を生かした進化・挑戦を盛り込むことで、柏崎らしさが出てくるのではないかとと思う。 「energy」は、柏崎市の強みである市民力・地域力を最大限に生かした原動力であるため、是非検討していただきたい。
委 員	:	思い切った表現にさせていただいたと思う。笑顔と躍動が原動力になっていると読み解いて、好意的に受け止めたところである。しかし、これまで議論してきたプロセスを知っているからなのかもしれない。文章として出された時に、やはり、「energy」が浮いている感じがある。 重点戦略は、柏崎市の積極的な攻めの姿勢が見られ、今後はこれに取り組んでいくという気持ちが表れていると思う。重点戦略1の安心と暮らしやすさの更なる追求・挑戦は、マイナスなところから上げていくネガティブな表現にも聞こえるため、使う言葉をもう少しブラッシュアップすることが必要だと感じた。
会 長	:	「笑顔」と「躍動」の間に中点があり、「energy」と「かしわざき」の間は空欄としているのが気になった。「躍動」と「energy」が同じ内容にも感じられることや、「energy」は市民力・地域力であるという意見を聞くと、案3の「未来」を再度採用し、「笑顔」と「未来」と「energy」という3つの言葉を組み合わせてもいいのではないかと感じた。第五次総合計画から第六次総合計画へ進むため、今までよりも一歩踏み込んだものが入れられたらいいと思う。
委 員	:	基本理念の表現について、他の自治体においても、市と市民のどちらが主語になるのか様々であるが、文章がくどくなるのであれば、「市民がともに育む」とす

	ると、市民の主体性も表現されてすっきりするのではないかと思う。
委 員	： 理解できるが、これは市の再上位計画なので、市民を主語にするには、もっと丁寧な議論が必要である。
会 長	： 提案の内容でよろしければ、基本理念については原案のとおりとしたい。
全 委 員	： 異議なし。
委 員	： 「energy」という表現が、柏崎あい・あーるエナジー株式会社や原子力発電所をイメージさせる。そこを含めて書いてあるようであり、あえてぼかしているのではないかと感じる。それであれば、活力としての「エネルギー」という意味合いではっきりと書いてしまった方がいいのではないか。
委 員	： 「energy」のままでいいと思う。「energy」をそれぞれがどう受け止めるのかで、多様な受け止めがあってもいいのではないか。行政として明確にする必要があるのであれば、まえがきなどで市長が意向をお示ししてはどうか。
委 員	： 資料3の将来都市像の再検討の案4に、「energyみなぎるまち かしわざき」とあるが、「大阪と比較してしまうとどうか」とはどういう意味か。
委 員	： 「energyみなぎるまち」と聞くと、大勢の人がいて商業も活発な大阪のような都市を想像してしまう。大阪では万博も開催中でにぎわいもあるが、柏崎市でこのような将来都市像を掲げて現実に乖離しすぎているのではないかという趣旨である。 「energy」が様々な産業の力としての「energy」、電力の「energy」、市民力の「energy」など、いろいろな意味を含んでおり、掛詞になっている。先ほど意見を述べた「躍動」と「energy」が同じようなイメージであることから、シンプルに「笑顔 エネルギー かしわざき」がいいのではないかと思う。
委 員	： 「笑顔」と「躍動」は想像しやすい単語であるが、「energy」がいろんな意味で捉えられる。好意的な意味合いばかりならいいが、原子力発電反対派の市民もいる中で、誤解を受けることもある。例えば「エネルギーみなぎるまちで未来を切り拓く」など、何かしらの説明があると、好意的に捉えられるのではないか。
事 務 局	： 様々なご意見をいただく中で、やはり説明やストーリー性を示すことが不足していると感じた。次回の審議会では、しっかりとストーリーを示した上で、再度案を提示させていただきたい。
会 長	： 先ほど、重点戦略1の安心の追求という言葉に違和感があるという意見もあったがいかがか。個人的には、重点戦略2の先頭に、「未来を拓く」などの言葉を付け加えてもいいのではないかと感じる。
委 員	： 重点戦略2の産業イノベーションの取組が個人的にあまり理解できていない。製造業も、ここではものづくり産業という言い方をしており、ソフト的に書いてある。補助金などの支援がこれから芽を出してくるとすれば、目標指標の設定の仕方によっては、重点戦略2は柏崎市の未来が見えてくるいい戦略だと思う。ただ、産業イノベーションがこれまでどのように行われてきたか分からないので気持ちが入っていかない。
産 業 振 興 部 長	： 現在も第五次総合計画で重点戦略として取り組んでいるが、市民にとっては成果として見えにくいのかもかもしれない。柏崎市は日本石油発祥の地であり、その石油を自身で採掘する機械を作り始めたことが、柏崎市のものづくりの始まりだと認識している。燕市や三条市のような最終製品ではないが、製造業そのものを支えるものづくり産業が柏崎市である。柏崎市全体では製造業に関わっている人が一番多く、その産業が活性化することで地域経済が活性化すると言える。人口減

少もV字回復は現実的には難しいが、産業を支えていくには、人はもちろんのこと、それを支えるDXも重要になってくる。デジタル技術を進めることで、若者や女性にも製造業に関わっていただけたらと思う。産業イノベーションにおいて一歩踏み込んだ新たな挑戦がめざす姿に盛り込まれている。

地球にやさしい再生可能エネルギーを使って製品を製造することは世界的にみても重要である。再生可能エネルギーの電気料金の補助により製品を作り、その事業がしっかりと継続されている。一番頑張っているのは事業者であり、事業者がしっかりと取り組んでいるからこそ、今、その芽が出てきていると思う。

委員：重点戦略1は「追求・挑戦」、重点戦略2は「挑戦」で結んでいる。重点戦略2について、「挑戦」の部分は理解できるが、重点戦略1については、「挑戦」というほどのものではない。重点戦略1で「追求・挑戦」であれば、重点戦略2の方も同じく「追求・挑戦」であると思うし、重点戦略1は「追求」、重点戦略2は「挑戦」にしても良いと思った。

また、重点戦略2のめざす姿に「本市の特性を活かした環境・エネルギー産業の育成」とある。太陽光であれば日本中のどこでも成立するが、本市の特性を活かすというのは、柏崎市のどのような特徴が入った環境・エネルギー産業なのか。

事務局：柏崎の歴史を見ると、石油産業から始まり、原子力発電所の産業に至り、再生可能エネルギーの産業を目指して進んでいる。エネルギーとともに歩んできたことを、柏崎市の特性としてめざす姿に表現している。

産業振興部長：第五次総合計画後期基本計画にもあるが、石油産業のまち、原子力産業のまち、再生可能エネルギー・原子力のまちへと発展し、最終的に脱炭素のまちとして進めていることから、エネルギーのまちとして歩んできた柏崎市の特性を表している。

委員：柏崎は、自動車産業の部品を製造する企業が多くある印象であった。ここ数年の進捗管理から、商業の売り上げは落ちている一方、製造業は少し伸びてきていると記憶しているが、伸びている製造業はエネルギー産業であるか。それとも昔からの自動車部品などを扱う製造業なのか。

産業振興部長：具体的な割合までは把握していないが、自動車産業に関わる事業者が多いため、製造出荷額で見れば自動車部品等の製造業が伸びているのではないかとと思う。

委員：重点戦略1のめざす姿や戦略の方向性は、これまでやってきたことで当たり前のことが記載されている。それが具体的に主要施策シートにしっかり落とし込まれていればいいと思う。

かつては自動車産業で伸びてきたが、現在は電気自動車にシフトしてきており、ピストンリングを中心にやってきた企業も今はそれだけではやっていけない。建設機械や半導体などの様々な分野の事業にも取り組んでおり、ピストンリングだけでやっている製造業は、今は少ないと思う。

委員：重点戦略1は、市民全体に向けた安心で暮らしやすいまちだが、重点戦略2は、これまでの話からするとエネルギーや製造業のキーワードが強すぎて、産業というとそれらの分野だけだと感じてしまう。農林水産業の人はどう思うだろうか。再生可能エネルギーや地球にやさしいということは、どの産業においても言われていることである。柏崎市はエネルギーのまち、製造業のまちということには違いないが、産業イノベーションといった時には、どの産業に対しても支援するというような説明にした方がよいと思う。

産業振興部長：	重点戦略2の戦略の方向性に「イノベーションによる各産業の高付加価値化」という記載がある。二次産業のみを指していると感じるかもしれないがそうではなく、農林水産業や商業も含めた各産業において高付加価値化が必要であるという考えである。今までと同じでは消費者には認めてもらえないため、そこにいかに柏崎市の特性を付けて消費者に選んでもらえるかが重要である。前に一歩進んだ施策を展開していくため、主要施策シートに落とし込んでいる。
委員：	各産業という言葉、エネルギーや製造業だけでなく産業全体をもう少しイメージしやすいものにした方がいいと思う。
委員：	重点戦略1でも、若者や女性をターゲットとしているが、人口ピラミッドを見ると男性よりも特に女性が市外に出ていく。女性の方が男性に比べると家業の縛りがなく情報もキャッチしやすいため、一度は都会に出たいと思うのかもしれない。商業に対しての盛り上げは重要であるが、商店街で雇用を増やすことは難しい。例えば、業種が製造業でも職種では事務職がある中で、学生をそういった視点に切り換えさせるのに手間取ってしまうため、なかなか学生の定着につながらない。やはり商業をイノベーションするということは難しいことか。
産業振興部長：	商業界全体が厳しい状況であるが、社長のたまご塾では、女性で自ら創業を考えている方も増えており、そうした方への支援については、空き店舗の利活用を含め、取り組んでいく必要がある。全体として、市民の地元購買意欲が上がっていかないことは課題である。製造業でも事務職はあるが、DXを進めることによって性別に関係なく、現場に出て活躍することができる。ある企業で、高校を卒業したばかりの女性がDXにより機械を操作しているのを見て、DXの推進によって性別に関係なく職を選択できることを目の当たりにした。創業支援を含め、女性からも選ばれるような働く場を作っていかなければならない。主要施策シートでは、女性に限定せず働く場の創出ということを記載している。
委員：	社長のたまご塾は、市と柏崎信用金庫と柏崎商工会議所が連携して取り組んでいる事業で、ちょうど今年で10年目になる。年間約10名前後の方が入塾し、様々なことを学んで起業しており、この10年で創業された方が62名ほどいる。地域では創業意欲を持った方が常にいると感じている。えんま市などのイベントでの市民の購買意欲は高いと思うので、観光協会などを中心に事業やイベントを積極的に展開し、地域にお金を落としながら、自分たちもこんなことをやってみたいという意欲を持つ人が増えていけばいいと思う。
会長：	産業イノベーションについては、全産業に向けたメッセージが伝わるよう、記載を検討していただきたい。
委員：	柏崎市には市民力・地域力が強いという話もあったが、3つ目の重点戦略を作るまでもないが、市民力を充実させるといった視点から、これまでも何回か審議会で話している、U・Iターンしてきた若者が新しいことを柏崎で始めて活躍していることも、重点戦略1に入れていただきたい。
委員：	冒頭にもお伝えしたが、重点戦略にも目標指標を設定していただきたい。例えば重点戦略1は、若者と女性の定住意欲の向上を目指しているが、市が行っている市民アンケートは年代別、性別、地区別に分析できるので、指標の計測にもぜひ活用してほしい。重点戦略1の目標指標の案としては、柏崎市に住み続けたいと思う人、柏崎市が住みやすいまちだと思ふ人、将来柏崎市に戻ってきたいと思ふ若者や女性が増えるなどを指標にすることで、本質的な意味での重点戦略1の達成状況を測ることができると思う。

本日の審議会の前までは、重点戦略2の目標指標のイメージが全くなかったが、産業イノベーションを全産業に対して考えていこうという方向性さえ決まれば、各産業について高付加価値化の状況を数値化する指標を設定し、それを丁寧にモニターしていくことで将来に向けての課題や方向性が見えてくると思う。そうした指標を使えるといい計画づくりにつながってくる。

委員：産業イノベーションと聞くと、どうしても工業などの二次産業をイメージしてしまう。商業や一次産業において、新しい取組を支援するという表現の方が分かりやすいのではないか。産業イノベーション＝ものづくりのようなイメージになっているため、新しいものが出てこないのが実情だと思う。産業イノベーションという言葉より、新しい取組を支援すると表現したほうが全産業に対応できると感じた。

事務局：様々な意見を頂戴した。市としてもたくさん議論した部分である。将来都市像については、できるだけこれに沿うような形で、ストーリー性を持った内容の追記を検討したい。また、2つの重点戦略の方向性はおおむねいいのではないかと受け止めたが、目標指標の設定も含め、表現の仕方で工夫ができるか検討したい。

【分野別施策の基本方針に係る主要施策シート(案)について

資料4及び5】

(資料4及び5に沿って、事務局が説明)

委員：今後をお願いになるが、議事が報告事項なのか、決定したい事項なのか、資料を参考程度に配るものなのか分からないため、資料送付の際に議事の運びの予定を書き添えてもらいたい。そうすることで、事前にどこを重点的に見てくるべきか分かりやすい。

主要施策シートの第1章の順番は、分野が生活・安全・環境であるため、まずは、1-6や1-7でまちの全体像が見えた後に1-1の原子力防災の安全対策があるべきではないか。こういった議論は分科会ではなかったか。

事務局：主要施策シートの順番についての議論があった分科会もあったが、ほとんどの分科会ではシートの中身が中心だったため、順番については審議会でご意見いただければと思う。

会長：同感で、1-6、1-7、1-8、1-9あたりを前の方に持ってきた方がいいと思う。

委員：主要施策シートの1-6には中心市街地活性化事業のことが出てきているが、2-4には出ていない。1-6の現状の問題点は、本町通りが魅力ある商店街でないことよりも、商業機能が低下して住民の生活が不便になり、生活の質が低下していることである。地域の生活環境整備の観点から、もう少し商業機能を付与して利便性を向上させようということと理解する。一方、2-4の魅力ある商業の振興では、市の産業振興の観点から、中心市街地活性化事業の活用も含めて、本町通りをこれからどう生かしていくかという視点を盛り込んでいただきたい。新聞で工科大の学生が、西本町から閻魔堂まで歩き、まちづくりの視点で調査されているのを見た。そのような取組から新しい商業スポットとして生まれ変わる可能性もあると思うので、2-4で扱っていただきたい。

各主要施策シートの目標指標については、もう少し指標の数を増やすことができるか。例えば、1-1では施策の方向性が5つ書かれているが、目標指標は5つ目に関連した指標のみとなっている。この指標だけで1-1（原子力安全や防災対策の推進）の達成度をみることは無理がある。数値化できない指標もあると思うが、各主要施策の方向性について目標指標を設定してもらいたい。

- 委員：基本理念や重点戦略を含めた体系図は、次回の審議会で示してもらえるか。基本理念、重点戦略、主要施策の一番の基盤に、柏崎市として何を置くのかである。他市では、その基盤として地域に対する誇りや愛着など情緒的なものになっているところもある。計画全体を支える要素が何であるか、基盤で柏崎らしさを出していくこともできると思う。
- 委員：主要施策シートの1-1から1-3は防災について書かれているが、いくら防災対策をしても災害はいつか起きるものである。災害が一度起きてしまうと早期復旧のために災害ボランティアセンターが立ち上がる。行政から委託を受けて行うものであるが、災害ボランティアセンターについても記載していただきたい。
- 委員：主要施策シートの5-4に大学に関連したものが出てくるが、目標指標としては入学の定員充足率と地元就職率で、大学の入口と出口の部分のことだけである。5-3の主要施策の方向性に、柏崎リーダー塾の商工会議所との連携などが書かれているが、そこに学生の市民力・地域力を記載できないか。産業大学の地域連携センターでは、「地域貢献活動や連携活動をした学生教職員数 延べ1,000人」をKPIとしている。新型コロナウイルス感染症の影響で一度は数値が下がったが、一昨年くらいからまた1,000人を超えるようになった。入口と出口だけでなく、在学中の二大学との連携を生かした指標も取り入れていただきたい。
- 会長：1,000人の若者が毎日両大学のキャンパスに来ている。それを生かすような連携ができるといい。
- 委員：資料4の1ページ目に書かれている1から5の章の順には流れがあると思う。例えば、安全がなければ生活できないし働くことができない。働いたら結婚して、その次に子どもに教育をするというような流れである。そう考えた時、5章が人間の基本的な人権やジェンダーなどの考え方であり、その次に安全が確保されることへつながるのではないかと思う。この流れは意図的なものか。
- 委員：主要施策シートの1-4に地域内公共交通のことが書かれており、柏崎市の大きな課題であると思うが、中心事業であるあいくるについての記載が薄いと感じる。また、主課題や主要施策の方向性だけでなく、目標指標にあいくるの利用者数や平均利用回数などがあっていいと思う。
- 委員：医療界は、労働人口が足りないという意味では、看護師やそれ以外の仕事をしてくれる人がいないと成り立たない。産業界でも若者を引き付けておくような成功事例がないとまちが成り立たないと思う。そういった成功事例をうまくアピールするような機会があればいいなと思っている。市から様々な支援をいただいている分、防災訓練などで医療機関としてできる部分については、協力したいと思う。まち全体で原子力防災や子育て、持続可能な医療や産業の推進など、横の繋がりを持ちながら進めていければいいと思う。
- 会長：文字ばかりでなく柏崎の魅力が目で見ても分かるといい。水がおいしいことなど柏崎の強みが、計画のところどころに入っているといいと思う。
- 事務局：施策の体系の全体像については、これまではパーツを議論してきたが、次回の審議会では計画を冊子にしたようなスタイルで資料をお示しする予定である。
- 主要施策シート1-4の公共交通について、あいくるのご意見があったが、市民から好評いただいている。あいくるを含めた指標で年間の利用回数を記載しているが、主要施策の方向性にあいくるをしっかりと記載できていない部分もあるため、現状も含めた記載を検討したい。
- その他、いただいたご意見を踏まえて、どのような工夫ができるか検討したい。

(4) その他

次回開催予定 令和7（2025）年7月31日（木） 柏崎市文化会館アルフォーレ

(5) 副会長挨拶

会議の冒頭の人口ビジョンの説明で、幸せを実感できるまちづくりや幸福度を上げることなどの話があったが、とても大事なところを最初に提示いただいたと思う。

人口が減るのは仕方のないことだが、自身の仕事柄、市外や県外、海外からも柏崎市に行きたいという方のお手伝いをさせていただくこともたくさんある。また2大学合わせて1,000人という素晴らしい大学生の力もある。本日の審議会でキーワードとしてたくさん出てきた市民力・地域力をどう生かして、循環させていくかがカギになっていると思う。総合計画はそれを生かすための計画である。

今日の議論をどう受け止め、どのように反映させて次回示していただけるのか、楽しみにしたい。

(6) 閉会

以上